



研究

沿岸レポート

自主研究

「英国における海岸リゾートと栈橋に関する研究」(1)

今後の我が国の海岸整備を考える

一般財団法人沿岸技術研究センター

審議役 八尋 明彦



研究の経緯と目的

英国の海岸リゾートには、海岸線から直角に沖側に延ばされた数多くの栈橋があり、海岸リゾートの象徴的施設として存在するだけでなく、今日でも多くの人びとに利用されている。これらの栈橋は、産業革命によって英国経済が進展した1800年代ビクトリア王朝時代の海岸リゾートへの人びとの関心の高まりのなかで、英国各地に競うように建設されたものである。全国で100基近くが建設されたがその後の老朽化、高波や火災などにより多くが消失した。様々な努力と経緯をへて、今なお58基が現存し、多くの人びとに利用されている。このうちライド栈橋は昨年2014年で200周年を迎えている。

一昨年2013年(6月26日～7月5日)と昨年(7月7日～18日)にかけてPIERS研究会(古土井光昭会長)が主催した調査団に参加し、海岸リゾートやその中核となる栈橋について現地調査を実施した。国内ではこれらの現地調査結果を受けて当研究会に参加し、以下

の点について議論を重ねた。

- (1) 栈橋運営の維持管理に関する体制と課題
- (2) 英国における海岸リゾートの発展と栈橋建設の歴史の変遷
- (3) 重要な栈橋の歴史と現状
- (4) 今日の海岸リゾートに対して栈橋の果たしている役割
- (5) わが国の沿岸域における海岸リゾート形成への示唆

今回数回にわけて、このうち海岸整備に関する成果について報告する。

調査した栈橋の概観と特徴

1. 英国の海岸リゾート栈橋の歴史

島国の英国には非常に多くの海岸リゾートがある。その各リゾートのシンボリックな存在として海に長く張り出した栈橋が人々の人気を集めている。実は全国各地(図2-1)に約110か所も建設された歴史をもつ。これらの栈橋の多くは、1700年代に始まる産業革命の成功により英国が「世界の工場」として繁栄を謳歌した1800年代のビクトリア朝時代に開発された。

その後これらの栈橋は暴風や波浪、船舶の衝突、火災、老朽化により半数近くが既に消滅し、英国栈橋協会によれば現在58本が残っているに過ぎない。これら栈橋は1800年代初頭から海岸リゾートに建設され始めた。そして、その萌芽期、地方展開期、第1次栈橋ブーム、第2次栈橋ブーム、そして世界大戦後から今日へと、大きく5つの時期に分けて、その歴史的な発展を考察することができる。(図2-2)

1700年代中期に海水が健康に良いと云われ、ロンドンなど大都市の貴族たち上流階級が保養と社交のため近郊の海岸にリゾートを開き始めた。やがて海岸にプロムナードが整備され、栈橋を建設し海の上を散歩することが流行し始める。また船を使ってリゾートに出かけるにも栈橋は不可欠であり、船舶の接岸を主たる目的



図1 2014年調査行程

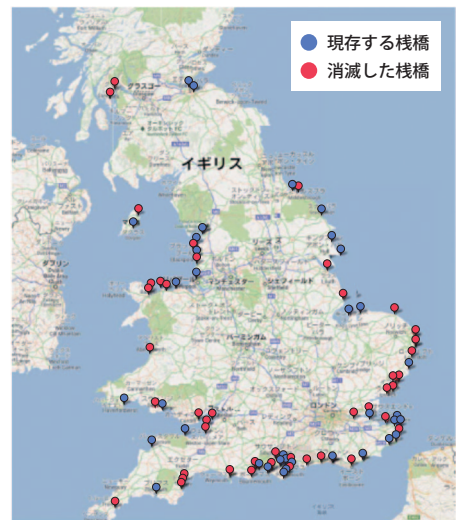


図2-1 英国における栈橋の分布

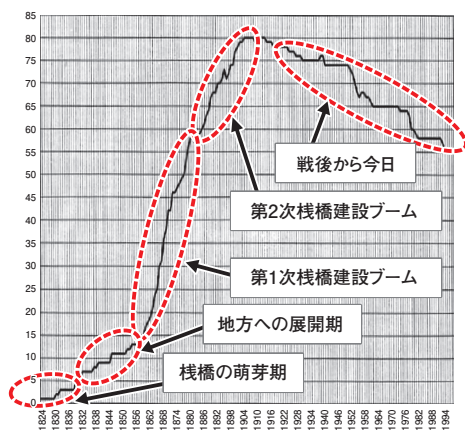


図2-2 稼働中の栈橋本数の推移

に建設された栈橋も少なくない。しかし、そうした栈橋もやがて海上のプロムナードとして利用されるようになった。

さらに海岸リゾートは大都市から地方の貴族たちにも普及していった。また上流階級だけでなく、工場経営者や金融業者など産業革命のなかで成功した中流階級も、貴族たちの生活に憧れリゾートで滞在し始める。これが各地のリゾート開発に拍車を掛けた。

1800年代半ばには労働の時間制限や休日の制定などが進み、蒸気鉄道の普及と相まって一挙に全国的な海岸リゾートの大衆化が始まった。リゾート開発が各地で進み、栈橋の第1次建設ブームとなった。1860年から1880年の20年間に、平均で毎年2本以上の栈橋が建設されたと記録にある。

やがて栈橋が拡張され、収容人数1000人、2000人と云う大規模な劇場やサロンが栈橋の上に建造され始める。1880年から1900年頃にかけての第2次栈橋ブームである。栈橋の大規模化、複合化の時代の到来であり、栈橋がもっとも輝いた時代である。

1900年代初頭にも僅かに新しい栈橋が建設された。1970年代に入ると海外旅行が大衆化し、英国内の海岸リゾートの利用者は減少した。しかし、あの熱狂的な時代は去ったが、人々の落ち着いた生活の中で海岸リゾートの栈橋を楽しむ時代を迎えている。

2. 調査した主な栈橋の概要

2か年にわたって英国の西南、東南、南部、南西海岸、さらにワイト島にある37本の栈橋とその周辺海岸を調査した。各種資料をもとに全栈橋の所有形態を調べると、およそ地方自治体などによる公的所有が4割、個人を含む民間所有が6割と云う状況にある。

以下に、このうち10本の栈橋を英国栈橋協会の資料に基づき紹介する。

(1) クローマー栈橋(Cromer Pier)

この栈橋は、ノース・ノーフォークに位置し1901年に完成したものである。その前に2つの栈橋が建設されたが壊れた。最初は1822年に木製の短い栈橋が建設され1843年に嵐により壊れた。2

番目の栈橋は同じく木製であったが、1897年に石炭船が衝突し大破した。その後1900年に延長136mの栈橋工事が開始された。



栈橋は落ち着いた雰囲気を持ち、先端には500人を収容できるビクトリア様式の劇場があって、全国の栈橋でも数少ない伝統的な夏場のショーや日曜コンサートを開催している。さらに最先端には、沿岸一帯の海難救助活動の拠点となる救命艇基地がある。

(2) イーストボーン栈橋(Eastbourne Pier)



イーストボーン栈橋会社は1865年に設立された。この栈橋はユーゲニウス・バーチ(Eugenius Birch)の設計で1870年に完成し

た。1877年に暴風で岸寄りの部分が流され、嵩上げて再建された。1888年に400人収容の劇場が先端部に整備され、やがて1899-1901年に1000人収容の劇場とバー、パノラマ望遠劇場(Camera Obscura)からなる大型パビリオンに取って代わられた。1970年に劇場は焼失したが、再建された。1987年に暴風により被災したが再建された。2009年、英国の歴史遺産Grade II*(Grade IIより重要度が高い)に登録された。同年、所有者のSix Piers社は売却を表明したが、栈橋の利用が盛況なため事業続行を決定。2010年には改装されたOcean Suiteが再オープンした。

なお調査団が帰国した直後の2014年7月30日、午後3時頃に火災が発生し、栈橋の岸寄りにある壮麗なデザインのパビリオンが完全に焼け落ちた。

(3) ブライトン・パレス栈橋(Brighton Place Pier)

ブライトンにはこの栈橋より前に、2つの有名な栈橋が建造された。1つはブライトン・チェーン栈橋(Brighton Chain Pier)であり、もう1つはブライトン・ウエスト栈橋(Brighton West Pier)である。チェーン栈橋は文字通り鉄製のチェーンを4基の橋塔に架けた吊り橋構造の栈橋(1134ft)で1823年に開設した。その優美な姿が高く評価され人気を博したが、1860年代より衰退し1896年暴風により破壊された。ウエスト栈橋(West Pier、1115ft)はユーゲニウス・バーチ(Eugenius Birch)の設計により、1866年に開設された華麗な栈橋である。全国でクレブドン(Clevedon)栈橋と並ぶGrade Iに登録された貴重な歴史遺産であったが、度重なる暴風に



よる被害に加えて、2003年の二度の大火により棧橋は骨組みを残すのみとなった。今年初めの暴風により、その骨組みも大破した。

さて1790ftの延長をもつこのブライトン・パレス棧橋は1899年に開設された。先端部に1500人収容の劇場が1901年に建設された。1910年には中央部に温室型のサロン用パビリオンが、また翌年に船舶の接岸施設が建設された。1973年まで棧橋に大きな変化はなかったが、1975年に係留施設が取り壊された。また1986年に劇場が撤去され、その跡にレジャー・ドームが建設された。現在そこには各種の遊戯施設やスリル満点の乗り物が導入されている。

(4) ライド棧橋 (Ryde Pier)

この1740ftの棧橋は1814年に、本土とワイト島とを結ぶフェリーや船舶の係留施設として開設された。今日供



用中の棧橋としては最も古く、昨年7月に200周年を迎えた。1824年に2040ftに延伸され先端部が拡張された。その後も数度にわたり延伸され2250ftにまでなった。1864年には軌道車用の棧橋が、また1880年には鉄道用の棧橋が、それぞれ並行して建設された。1911年までに木杭の棧橋が順次、鉄製の棧橋に入れ替わった。1903年代初めにはコンクリート製の棧橋に再建された。

先端部にはビクトリア朝様式の待合室が建設されていたが、1976年に新しいビルに再建された。現在でも島内への鉄道は棧橋の先端部駅から出発している。フェリーを運航しているWightlink社が棧橋を所有している。

(5) ボーンマス棧橋 (Bournemouth Pier)

1856年に100ftの木造棧橋が建設され、1861年に1000ftの木造棧橋に建て替えられ、さらに1866年に鋳鉄製の杭に打ち換えられたが、



1876年に暴風により破壊される。1880年に著名なユージニウス・バーチ (Eugenius Birch) の設計により838ftの棧橋が開設され、そ

の後延伸され1000ftになった。

1976年に深刻な腐食が見つかり棧橋の再建に着手、1981年に完成した。2006年に棧橋の運営会社が変わり(所有は地元自治体)、2011年に棧橋の再開発構想の中で先端部の歴史的な棧橋劇場 (Pier Theatre) の閉鎖が提案されるが、住民の反対により否決。2013年には反対が多かった棧橋近くのIMAX施設が撤去された。

(6) スワネージ棧橋 (Swanage Pier)

まず1859年に750ftの木造棧橋が建設され、石灰石の積出しと旅客輸送に活用された。現在この棧橋は杭が残るだけで、1897年にその



西側に642.5ftの“新しい棧橋”が開設された。やがて杭が朽ち始めコンクリート製に打ち換えられた。

1996年に旅客船の就航が終わり、棧橋は十分に維持されなくなった。1994年、Swanage Pier Trustが棧橋を購入し、歴史遺産宝くじ基金や一般からの寄付など多額の資金調達に成功し、補修された。棧橋は今日多くの利用者にさまざまな楽しみ方を与えている。海中カメラが設置され棧橋訪問者が海中の状況を楽しむことが出来る。2012年のPier of the Yearを受賞した。2013年3月に暴風で大規模な被災をしたが、苦労の末、修復工事に着手し、2014年1月完成した。

(7) ウェストン・スーパー・メア・グランド棧橋 (Weston-Super-Mare Grand Pier)



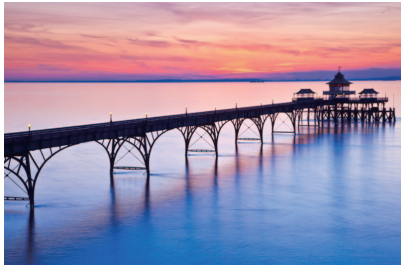
海岸リゾートであるウェストン・スーパー・メア (Weston-Super-Mare) は、大都市ブリストル (Bristol) やブリストル海峡を挟んだ対岸のウェールズの首都カーディフ (Cardiff) から近く、古くから賑わっていた。ここにバーンベック棧橋 (Birnbek Pier)、現在は老朽化して閉鎖中) に続く第2の棧橋を建設する構想は1880年に遡る。この棧橋は1903年に着工し1904年にオープンし

た。先端にはオペラや音楽演奏、シェークスピア劇、バレエ、拳闘などを行う2000人収容のパビリオンが設けられていた。

1903年に火災でパビリオンは焼失したが、1932/33年に再建された。しかし劇場と云うよりも大規模な遊園地のようであった。栈橋はよく維持され多くの利用者が訪れた。2008年初めに替わった所有者は、栈橋を一流のエンターテインメントの場とすることを目指して改修に大型投資を行った。しかし同年夏、大規模な火災が発生し全ての施設が灰燼に帰する。所有者はそれでも栈橋の再建を断念せず、コンペで選ばれた設計をもとに新しくモダンなパビリオンの建設に着手し、2010年秋に再開に漕ぎつけた。

(8) クレブドン栈橋 (Clevedon Pier)

延長842ftのこの栈橋は1869年に開設された。英国一の潮位差48ft(14.5m)があるため海上から高く聳える。かのブルネルが鉄道建



設に導入しようとして失敗し廃材となった錬鉄製レールを活用し、100ftスパンのアーチ8連と杭式のトラスからなる美しい構造の栈橋である。1952年より構造の安全検査を定期的に行っていたが、1979年載荷試験中に2つのスパンが海中に落下し、栈橋は閉鎖される。

地元自治体は再建に多額の費用を要するため栈橋の撤去も考えたが、住民の反対により再建を決意。多くの組織から資金援助を受けて1982年に再建着工した。栈橋本体は一度解体され陸上で修復され、再度現地に戻し組み上げて、1989年にオープンした。1995年には栈橋の先端部と接岸施設の全面修復を行った。2001年にそれまでの歴史遺産登録がGrade IIからGrade Iに格上げされた。同じくGrade Iのブライトン・ウエスト栈橋(Brighton West Pier)が壊滅した現在、全国で唯一のGrade I栈橋である。2012年から2013年春まで栈橋の本格的な維持補修を実施し再開した。同年のPier of the Yearに選ばれた。栈橋基部にあるGrade IIのロイヤル・ピア・ホテル(Royal Pier Hotel)の修復再生と新たなビジターセンターの整備が進んでいる。

(9) ペンアルス栈橋 (Penarth Pier)

この栈橋はウェールズ地方に残るビクトリア朝の栈橋の1つである。680ftの延長をもち1895年に開設された。海上のプロムナードであるとともに当時ブリストル海峡を頻繁に渡る蒸気船の接岸施設として利用された。1929年にアールデコ様式のパビリオンが建設された。1931年に大火により栈橋の多くの建物が焼失したが、岸寄りのこのパビリオンは無事であった。再建された栈橋は、

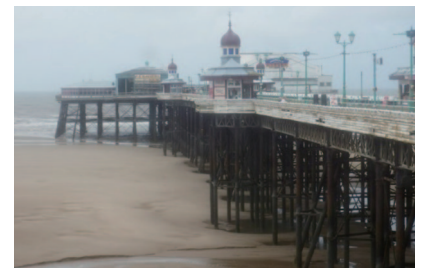


1947年、強風によりPort Royal Park号(7000トン)が激突し大破した。やがて再建され1950年に再開する。1981年に船舶の定期運行が終わった。

多くの組織からの資金援助により、本格的な修復工事が1994年から始まった。杭構造物、デッキ、栈橋上の施設、係留施設など、栈橋の全てに及んだ工事は1998年に完成した。老朽化が進んだパビリオンも、別途に多くの機関からの援助を受けて、修復と再利用計画が作成され、2012年秋から工事を開始し2013年末に完成、オープンした。新装なったパビリオンには、70席席の常設映画館、演奏会場、展示スペース、バー、海峡を眺めるレストランなどが入っている。2014年のPier of the Yearを受賞した。

(10) ブラックプール・ノース栈橋 (Blackpool North Pier)

この栈橋は、1863年、マンチェスター、リバプールなど英国北西部の工業地帯の海岸リゾートとして急速に発展するブラックプールに最初



に建設された。ユージニウス・バーチの設計。翌1864年には観光用蒸気船が接岸する栈橋を増設し、1874年にはパビリオン、屋外ステージ、レストランなどを収容するため栈橋の先端部を拡張した。その後、船舶の衝突や火災による被害を受けたが、その都度再建されてきた。1500人収容の現在の劇場は1939年に建設されたものである。ブラックプールにある3つの栈橋の中でも、最もビクトリア朝の建築様式の華麗さを残しており、他の栈橋が娯楽・レジャー機能を重視する中で、落ち着いた雰囲気漂わせている。

<参考文献>

- 1) 英国PIERS調査報告書、PIERS研究会、2013年及び2014年
- 2) 英国栈橋協会ホームページ